〔萬葉集三挽歌〕溺死出雲娘子火葬吉野時、柿本朝臣人麿作歌二首、○一首略

八雲刺、出雲子等、黒髪者吉野川、奥名豆颯、

〔古今和歌集十物名〕をき火

ながれいづるかただにみえぬ涙川をきひん時やそこはしられん

みやこのよしか

〔萬葉集三雜歌〕鴨君足人香具山歌一首幷短歌

天降付、天之芳來山、霞立、春爾至婆、松風爾、池浪立而、櫻花、木晩茂爾、奥邊波、鴨妻喚、邊津方爾、味村左和伎、○下略

〔古事記上〕是以伊邪那岐大神詔、○中略故吾者爲御身之禊而、到坐竺紫日向之橘小門之阿波岐原而禊祓也、故○中略於投棄左御手之手纏所成神名、奥疎神、訓奥云淤伎、下效此、訓疎云奢加留、下效此、次奥津那藝佐毘古神、自那以下五字以音下效此、次奥津甲斐辨羅神、自甲以下四字以音下效此、次邊津藝佐毘古神、次邊津甲斐辨羅神、

〔古事記傳六〕左の御手纏に成る三神を奥と云ひ、右のに成る三神を邊と云、奥は海の奥、邊は海邊にて、常にも對言なり、さて左を奥に當るは、師説に、萬葉九に、吾妹兒者、久志呂爾有奈武、左手乃吾奥手爾纏而去麻師乎とある卽此意なりと云れき、○中略さて淤伎と淤久とは同言なり、邊は端方なり、波志を切て比となり、比倍を切て閉となれるなり、故海邊を宇那備、濱邊を波萬備、岡邊を乎加備とも古歌によめり、

〔萬葉集九雜歌〕大寶元年辛丑冬十月、太上天皇○持統大行天皇○文武幸紀伊國時歌十三首、○十二首略

爲妹、我玉求、於伎邊有、白玉依來、於伎都白浪、

〔千載和歌集十二戀〕寄石戀といへる心を

我袖は鹽干に見えぬ沖の石の人こそ知らね乾くまもなき

三條院讃岐